令和２年１月 18 日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
令和２年度 第１回

壺中の天

年が明けて最初の北関東フォーラムです。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様から年賀状を戴きました。その中で澤浦会員の年賀状に、奥様の看病で時間のやり繰りが大変だけれども、工夫して楽しくやっていると書いてありました。更に、山田方谷や二宮尊徳に傾倒し、太極拳やヨガを鍛錬しているともありました。

人間はどこかでほっとする時間をつくると良いですね。忙しければ忙しいほど、或いは苦しみもがいている中でも、ほっとする時間・場所が必要です。安岡正篤先生の「六中観」で言うところの「壺中の天」です。自分自身の腹の中に壺があり、その中に入ってみると素晴らしい世界が広がっている。今風に言えば、癒される時間・癒される場所を作りなさいということです。

また、青木幹事から篆刻のグループ展の案内を戴きました。青木さんは、篆刻の世界に入っていると没頭できるでしょうし、癒されるのではないでしょうか。そのように、御一人御一人が癒される時間をどこかで持つと良いですね。

ちなみに、「六中観」の中で一番大事なものは「腹中書有り」です。腹の中に哲学があるか否か。人間には哲学（自分は何故生きるのか。この世に生まれて、何故生きているのか）が一番大事です。

ここにおられる方は、フーテンの寅さんはご存じでしょう。「男はつらいよ」の作品の中で、甥の満男が「伯父さん、人間は何のために生きてるのかな」と聞くと、寅さんが「生まれて来て良かったな、と思う事が何べんかあるじゃない。そのために生きてんじゃねえか？」と答えるシーンがあります。そういう問答をするのが哲学（人生哲学）です。ですから、答えは色々あります。

では、紹介書籍を回覧します。どちらも、堅苦しい本と柔らかい本の中間に位置する本です。知識も入ってくるし、氣持ちもほぐれる本です。

『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』（加藤陽子著　新潮文庫）は、緒方貞子さん

の卒論も同じテーマだったそうですが、第三次世界大戦への道を考えるヒントになると感じました。もう一冊は、『資本主義はなぜ自壊したのか』（中谷巌著　集英社文庫）です。矢野彈先生に勧められて読みましたが、資本主義の次は？ を考えるヒントになると思います。

庚子（かのえ ね）・・・継承・償い・更新

本日のテーマは「庚子」です。干支学は60年周期で考えます。60年前にどういうことがあったか、2、3年の誤差があっても、また同じことが起きると考えて干支を見ていくわけです。

60年前の昭和35年は、誰かが旗を振ったわけではないけれども、暴力が吹き荒れました。社会党の浅沼稲次郎委員長が右翼の少年に壇上で刺殺されました。普通、右翼は身体ごとぶつかって相手を刺すのですが、当時の写真を見ると、山口二矢という17歳の少年は、へっぴり腰で刺しています。私は日本ＪＣ時代に或る右翼の大立て者と会ったことがあります。その人は、「右翼は一人一殺をもって命とす。成し遂げた暁には靖国神社に祀られないことをもって誇りとすべし（日本の為に害を成す人物だと信じたなら自分の命を投げ捨てて刺殺しなさい）」と言っていました。

それからもう一人、亡くなっています。安保反対で全学連4000人が国会突入をはかり、警官隊と衝突、東大生の樺美智子が圧死しました。

また、民間では、三池炭鉱のストライキが1月に始まって11月まで続きました。500万人動員とありますから、今の香港の比ではありません。

政治家はどうかというと、警察官500人を国会に導入し、無理やり安保法案を通しました。

やくざはどうかというと、松葉会23人が自分達を批判したということで新聞社に殴り込みをかけました。

学生も一般人も政治家も、右翼もやくざも警官も、とにかく皆が暴力で通した年でした。そして最後12月になって池田内閣が登場し、所得倍増計画を発表。そこからどんどん良くなって希望が溢れて来たわけです。

ここでよく見ておかねばならないのは、誰かが先導して暴力が吹き荒れたのではないということです。心の中のイライラが溜まりにたまって、不安でこの先どうなるかと思っている。そこに、ちょっとの火が点いただけで、燎原の火の如く広がっていった。これが60年前です。

では、「庚子」を文字から考えます。「庚」には三つ意味があって、第一は継承、第二は償い、第三は更新です。「子」は新芽が生じ、広がるという意味です。「庚」と「子」、どちらも新しいうねりを意味します。新しい芽が生まれて、それが一氣に広がる。特に、国民の心の中に何か不安や不満がたくさん溜まっている時には、爆発的に広がります。

何が出てくるか分かりませんが、私はどうも、スマホが鍵になるような氣が致します。以前から申し上げているように、キャッシュレスの時代に入るので、スマホが使えないと取り残されるようになります。

通貨が消滅するということを、私は10年くらい前から申し上げています。そして、通貨が消滅した先はどういう社会になるか分からないという言い方をしていましたが、少なくとも、お金がなくても人は動くと感じています。阪神淡路大震災の後には、ボランティアが爆発的に出て来ました。人が困っている時は会社を休んでもボランティアに行くわけです。そして、会社側もそれを公休として認めるという動きも出ています。ですから、お金で動くだけではない社会が、もう始まっています。

では、国はどういう状況でそれを後押しするか考えてみましょう。現在は硬貨や紙幣がお金として流通していますが、キャッシュがなくてもスマホやカードでピッとすれば支払うことが出来ます。私はタクシーに乗ると、運転手さんに現金で支払う人の割合を聞くのですが、今は現金払いの人は3割くらいのようです。オリンピックが始まったら、もっと減るでしょう。

実は、私もこの間、息子にスマートホンのアプリを入れてもらって、コンビニでピッ！とやって買い物をしました。レシートには5%還元とありました。これを目の当たりにされたら、9か月の期間であっても、否応なく広がるだろうと思います。それを詰めていくと、現金の口座は要らなくなるなと感じました。

先日、或る地方銀行の頭取とお会いしたのですが、もう銀行は要らない時代になって来たと言っておられました。特に地銀は各県に一つでよいと金融庁が旗を振っているから、銀行の吸収合併やグループ化がどんどん進むでしょう。その行きつく先は、銀行が無くなるということになります。今のところ日本銀行は、銀行を助けるため、デジタル通貨の波に乗らないと標榜していますが、いつ何時進めるか分かりません。そうなると、スウェーデンのようになりますね。スウェーデンや中国は中央銀行がお金を刷らないでデジタル通貨発行を検討するほどキャッシュレス化が進んでいます。

今、リブラが国家を超えてキャッシュレス化を広げようとしていることに対して、様々な国が目の色を変えて叩き潰そうとしています。しかし、5年、10年の単位でいけば、国が負けます。ですから、皆さんもピッ！と買い物をすることに慣れていた方がよさそうで

す。そういう時代になってしまいました。

ではその先、通貨が消滅してどういう世界が生ずるか？　新聞もテレビも出版業界も、お金が消滅した後どういう世界になるかという仮説をどんどん繰り広げるでしょう。ですから今年は賑やかになります。そして、誰かが指示するのではなく、自分たちで溜まりに溜まったものを表現したいから、あっという間にその社会が広がってくると思います。その話が出れば出るほど、銀行の価値は無くなっていくでしょう。

余談ですが、この間、低所得者層ほどマイナンバーカードが広がっているという話を聞きました。低所得者層の人たちは、政府から色々言われて作らざるを得ないような状況になっているようです。こんな話があります。非課税所帯の人が、何らかの理由でたまたま口座に 100 万円くらい入った。するとマイナンバーで口座を調べられて、非課税を取り消されたそうです。

マイナンバーは低所得者層の人たちからも税金を徴収する仕組みです。言葉は悪いですが、本人の意向に関係なく勝手に天引きするのですから、強奪です。私も以前、年金から勝手に住民税が引かれていました。後で氣付いて非常に腹が立ちましたが、そういうことを合法的に進めるのに、マイナンバーは実に便利な仕組みなのです。キャッシュレス化が進めば進むほど、国はマイナンバーで税金を引き落としていくわけです。

もう一つ、氣になったことを申します。れいわ新選組の山本太郎さんが、『文藝春秋』（2020 年 2 月号）に「消費税ゼロで日本は甦る」と題して政策論文を書いていました。れいわ新選組の話はあまり真剣に聞いていませんでしたが、論文を読んで、たいしたものだと思いました。理由は、政府・各省庁が出している資料やデータを基にして、それを活用して解説をしている点です。しかも普通の人が分かるように簡単な言葉で置き換えています。

例えば、厚労省の国民生活基礎調査によると、生活が苦しいと感じている人の割合は、全世帯の 57.7％（2018 年）、母子家庭に限れば 82.7％（16 年大規模調査）とあります。また、2014 年の総務省の調査を基にした試算で、国税の滞納 6200 億円のうち消費税の滞納は 3600 億円と 6 割を超しているとあります。ただし、この調査については出所を詳しく書いてありません。更に、所得税について国税庁の申告所得税標本調査を基にした数字で、年収 1 億円以上の金持ちは所得税の負担率が 28.7％、100 億円以上の超大金持ちは負担率が 17％とあります。・・・このように、消費税などとんでもないという論拠を、国が調査した資料で出しています。

更に、日銀の資金循環統計によると、2012 年の政府の赤字が約 40 兆円なのに対し、民間の黒字は 42 兆円。政府が財政出動して赤字が増えていくと、その分民間は黒字になっている、とあります。これは、私が言い続けている「入るを図りで出づるを制す」や政府の言うプライマリーバランスをひっくり返した考え方ですが、こうやって資料できちんと出してくるのは今までありませんでした。

最後に具体的に政策として、消費税廃止と最低賃金 1500 円、これをセットで提案していました。粗削りながら、まともな文章でした。

恒例の質問

では、恒例の質問に参ります。年が明けて半月しか経っていませんが、お聞きします。

○　今年になって、比較的良い日が続いていると思う方

何度も申しますが、客観的に判断しない。主観的に自分が良いと思えばよいのです。とりあえず自分が良いと思うものを見つけて下さい。そうすれば良い日が続きます。

○　今年になって、嘘を比較的ついていない方

嘘をつかない日が続けば、良い日が続いているということになりますね。

○　有難うと言い、有難うと言われることが多い方

有難うと言うのはごく当たり前で、有難うと言われるには、何か工夫しなければいけません。有難うと言われないということは、居場所がだんだんなくなります。家の中で居場所を確保しようと思ったなら、奥さんにコーヒーを入れてあげるとか、意識的に有難うと言われるようなことをする。そうすると、だんだん居心地が良くなると思います。

○　健康法を続けている方

今日の朝稽古は山﨑先生がお休みでしたので、梅川理事と林理事と私の 3 人で棒術の練習をしました。朝稽古を始めた頃は責任感で、練習に来られる人がいる限りは行くと決めて道場に来ていました。今は生活習慣になっているのと、何より楽しいのです。仮に、誰も来ていなくても、道着に着かえて道場で運動すると、うっすら汗をかいて氣持ちが良いし、仮想の敵にむかって棒を振り下ろしているとスカッとします。

他にも私は毎朝 1 時間ストレッチをしていますし、今朝も自転車で 30 分走ってきました。

○　今年に入って、自分磨きをせっせとしている方

皆さん手が挙がるようになりました。自分磨きは自分なりの手法で続けて下さい。

○　昨晩、明日以降のことを過去形でイメージして寝た方

来月私は太極拳の団体から講話を頼まれて、「論語から見た太極拳を日常生活に活かす」というテーマで話を致します。ですから最近は寝る前に、＜講話が終わって万雷の拍手を

もらった。非常に氣分が良い＞ と過去形でイメージして眠りにつくようにしています。

論語解説

では、論語の視点に参ります。前回、論語の解説が残ってしまいましたので、陽貨篇 25・26 から参ります。

【二十五】子 曰く、唯 女子と 小 人とは 養 い難しと為す。之を近づくれば 則 ち不孫なり。之を遠ざくれば 則 ち怨む。

ここは問題のある言葉です。「女子」は女性という意味になるし、君子に対しての「小人」ということになります。「はしため」とわざわざルビを振ったのは、孔子の時代は妻妾同居で、同じ屋敷の中に正妻と何人かのお妾さん、他にお手伝いさん、と色々な女性がいました。ですからここは限定的に、下女（女性の使用人）と下僕（男性の使用人）とお考え下さい。

孔子が言うには、自分の所にいる下女と下僕を使うのは大変だ。親しげな扱いをすれば、主人を畏れ敬うことがなくなってしまう。ぞんざいに扱えば恨みを抱く。こういうことが困ったものだ。

・・・複雑な家庭は、治めるのが大変難しいものだと捉えればよいでしょう。

【二十六】子 曰く、年 四 十 にして悪ま見るは、其れ 終 ならんのみ。

孔子が言うには、四十にもなって人様から尊敬されないどころか却って憎まれる。そういうような人間であれば、もうお終いだ。

四十といっても、今現在の四十で考えるわけにはいきません。人生の終わりが近づいている頃の自覚です。人生百年時代で考えれば、八十歳くらいでしょう。

ただ、八十歳になっていれば、もう他人の評価を氣にしないのではないかという感じも致します。以前、石川忠久先生がご自分の 85 歳の誕生日に作られた漢詩をご紹介しました。

自慶 八十五回誕辰

老来踰矩愧文宣　老来矩を踰えて 文宣に愧じ
猶比放翁斉永年　猶ほ 放翁の永年を斉しくするに比す
不管世間多少謗　管せず 世間 多少の謗り

笑立春風楷樹前　　笑って立つ　春 風楷樹の前

（孔子の歳も抜いて、陸放翁（南宋の有名な詩人）と同じ歳になってしまった。この年まで長生きしたら、多少世間の人から悪口を言われたってお構いなしだ。二コニコ笑って春風の吹く楷樹の前に立っているよ。）

私は自転車で走る時、「人生七十古来稀なり」の漢詩を吟じて、それから石川忠久先生のこの漢詩を吟じながら走っています。お互い、良い年齢を重ねたいものです。

次、微子篇に参りましょう。

【一】 微子は之を去り、箕子は之が奴と為り、比干は諫めて死す。孔子曰く、殷に三仁有り。

微子は殷の紂王の兄で、箕子と比干は紂王の叔父です。

紂はとても暴虐な王で、微子は愛想をつかして、国を捨て周へ逃亡した。

箕子は紂王の虐政を諫めたが聞き入れられないので、奴隷に身を落とした。

比干は紂王に抗議したために殺された。

孔子が「殷の国には三人の仁者がいた」と言われた。

【二】 柳 下恵 士師と為りて三たび黜けらる。人曰く、子 未だ以て去るべからざるかと。曰く、道を直くして人に事えば、焉 に往くとしてか三たび黜けられざらん。道を枉げて人に事えば、何ぞ 必 ずしも父母の邦を去らんと。

柳下恵は魯の国の賢人です。

柳下恵が魯の国の司法長官に任命されたが、三度罷免された。ある人が、そんな待遇を受けてまで、なぜ他の国に行かないのかと聞いた。

柳下恵が答えるには、真っ正直にやって人に仕えるのであれば、どこの国に行っても三度罷免されるでしょう。自分の意思を曲げて仕えるのなら、故郷を去ることはないでしょう。

【三】 斉の景公 孔子を待ちて曰く、季氏の若きは 則 ち吾能わず。季孟の 間 を以て之を待たんと。曰く吾 老いたり、用うること能わずと。孔子行る。

斉の景光が孔子を招こうと、「魯国の季氏のような待遇は出来ませんが、季氏と孟氏の間くらいの待遇をいたしましょう。」と申し込んだが、しばらくして言うには、「私は年老いてしまったので、あなたを任用することが出来なくなりました」と言った。それを聞いて孔子は、自分の力を発揮できないと思って、斉の国を去りました。

通貨消滅の後は・・・

では、基本哲学「知足」を申します。「足るを知る」とは、人から見て貧乏であっても、自分が満足していれば良いわけです。孔子が顔回を評して、お金がなくても満足して一日一日を全うしながら生きていくのは素晴らしい、と言っています。

昨年中斎塾フォーラムのメンバーで、岡山県高梁市の山田方谷先生ゆかりの地を訪ねました。河井継之助も滞在したという御茶屋跡に、方谷先生の書かれた「富貴は淫せず貧賤を楽しむ」という額が掲げてありました。程顥（ていこう）の「秋日偶成」という漢詩の一節です。お金持ちにはならないが、心がいつも満ち足りている。お金が無いなりに、お金が無いことそのものを楽しむ。そういう人生を送るのは良いものだ・・・という内容の漢詩です。この心持が、そのまま「足るを知る」に当てはまります。

お金が少なければ少ないなりに生きていけるという感覚、「足るを知る」の世界は、おそらく通貨が消滅した後に出てくる「お金がなくても生きていける時代・社会」ではないかと感じます。原始社会では、木の実や獲物をとって食べ、移動する時は自分の足で歩いていく・・・エネルギーはタダで使えるし食べ物もタダでとれる。一つの仮説として、通貨が消滅した後は、そういう時代のようです。

そう考える時に一番のポイントとなるのは、満足して一日生きられるかです。今日も一日良かったと思う。そういう生活が出来ると、「足るを知る」という生活により近づいたことになります。

前半の干支の部分で、通貨が消滅した後の世界はスマホが鍵になると申しました。おそらくスマホの先の世界が、「足るを知る」社会になると思っています。今のスマホは、そこに至るまでの途中経過だと思っています。ただ、途中経過をすっ飛ばしてしまうと、その先に行けませんから、やはりこれはそれなりに使わなければならないと思います。

これは、日銀の対応如何で、日本の国は相当変わると思います。日銀を変えるためには、政府が変わらなければいけません。

干支の「庚子」で考えると、継承という部分では、自公体制がそのまま継続していく。

安倍さんはもう終わるでしょうが、安倍さんに賛成する者、反対する者ひっくるめて自公体制は続いていきます。

償うという部分では、今まで日本の国が間違っている政策（国民のためになるようなお金の使い方をしていませんから）、それに対しての反省が出てくると思っています。何度も申し上げていますが、災害で大変なめに遭った人たちへの対応は酷いものです。奥尻島では、復興予算が使われて素晴らしい公共施設や道路が沢山出来ましたが、島民、特に若い人達は島から出てしまって人口が激減していました。3.11 の被災者に向けて補償金が支払われましたが、使い道が分からずに身を持ち崩す人が増えたと聞きます。国は、お金をばら撒けばよい、というやり方しかしていません。そういうことをひっくるめての反省が出てきます。今年はそういう年回りです。反省して、消費税もなしにすれば更に良いのですが・・・。

更新は、新しく何かが始まるということですから、今年はもの凄く荒れます。荒れ放題の年になる。ということは、その中にチャンスが沢山入っています。チャンスを捕まえるのも荒波に押し流されるのも、その人の学び方・努力の仕方次第です。

今朝の日経新聞に**「中国経済、高齢化の影　迫る“団塊”退職、しぼむ内需」**とあります。中国は今、覇権国になろうとしてどんどん手を打っていますが、やり方が下手なものだから他の国から大分叩かれています。日本の後を追いかけているから、年寄りが激増し、毎年 3000 万人の単位で若者が減っています。スマホを大いに活用する世代がどんどん減っているということですから、今後、或る日を境にして、中国は滅茶苦茶にしぼんでいきます。

アメリカはトランプさんが出ておかしなことになっていますし、イギリスはＥＵ離脱が正式に通りました。ということで世界的に見ても、大荒れの状況です。

では、日本はどうか・・・、これから荒れます。既に心の中は荒廃して来ているから、火が点いた途端に訳の分からないものがごちゃごちゃと広がって行って、どこに照準を当てればよいか分からなくなるけれども、これだと自分が信じたものを徹底的に追及していくと必ずチャンスが訪れます。チャンスを掴むかどうかは、運ですね。幸福の女神に後ろ髪はないと言いますが、幸か不幸か分からないけれども、掴まないよりはよいと思います。不幸だと思った瞬間に変えられますから。ですから今年は行動を優先することです。荒れた中でチャンスを掴む確率は五分五分です。面白い年になると思っています。

お時間になりました。これで本日の講話を終了致します。